

## 週日の説教

金 大烈 神父 2009年9月3日(木)

### 《聖なる恐れと悔い改め》

今日の福音(ルカ 5・1 - 11)では、シモン・ペトロがイエス様についていく召命の場面がルカによって紹介されています。シモン・ペトロは、夜通し苦勞して漁をしたのに何も獲れませんでした。しかし、イエス様の言葉に従って網を降ろすと、おびただしい数の魚がかかります。それを見てシモン・ペトロは、「主よ、わたしから離れてください。わたしは罪深い者なのです。」と言いましたね。

この「わたしは罪深い者なのです。」という言葉を通して黙想してみましょう。

信仰の道を歩み始めた理由や動機を聞いてみますと人によって様々です。みんな違います。自分の意志を持つ前に、親によって幼児洗礼を受け、自然に日曜学校へ行き、親に連れられて教会の生活をします。そしておとなになり、そのままそれが自分の生き方になった人々もいます。また、仕事で失敗を体験し、希望を失った時に聖書に出会い、信者になった人もいます。隣の人の模範的な生活を見て、自分ではできないことを本当にきれいに行えている姿に感動して、信仰の道に入った人もいます。たぶん皆様も信仰の道を歩み始めた理由を思い出せると思います。その理由はそれぞれみんな違います。そして、これは正しい理由、これは悪い理由、とすることはできません。本当に大事なことは、動機より、目標を決めてその道を正しく歩めたのかどうかです。それが大事な基準にならなければなりません。

しかし、信仰の道を歩んでいても、具体的な信仰の味が分からない、という気持ちになることがあると思います。「信仰の味をよくご存知でしょうか？」と聞いてみますと、「そんなに感覚的に感じたことはありません。」と答える人がいらっしゃいます。なぜそういうことになるのか、少し考えてみましょう。

人間には、他の動物と違うところがいくつかあります。その中で、人間だけにできることがあります。それは、恥を感じることです。人間だけに与えられている心の働きです。恥を感じることは本当に美しい賜物です。人間は、良心に逆らう何かをしてしまうと恥を感じます。これは美しい恥です。皆様が気づいたかどうか分かりませんが、将来私たちのパパ様になる使徒ペトロの信仰の基は、恥を感じることでした。彼は、「わたしは罪深い者です。」「わたしから離れてください。」と言っていますね。人間の本能では、聖なるものに接する時に恐れを感じます。そして、何とかしてこの雰囲気から離れようとしています。この時、シモン・ペトロもそういう思いだったのでしょうか。彼が、イエス様を選ばれるまでに何か罪を犯したかどうか、聖書では一言も説明していません。おそらく彼は純粹でごく普通に見られる漁師の心を持っていたのでしょうか。あまり勉強する機会もなく、経済的にも他の人々と比べて決して豊かな環境で生きた人ではないと私は思います。

では、このような人の「わたしは罪深い者です。」という告白はどこからきたのでしょうか？皆様、信仰の味はこの段階を必ず踏まなければならないのです。‘私は罪人だ’という信仰的な体験がなければ、何年信仰の生活をしていても、信仰を願うことはできません。ですから教会は、赦しの秘跡を受けるように強く、強く、勧めてきました。それは、人を殺したり、盗んだり、という大きな罪を犯したからではありません。皆様よく周りを見回してください。赦しの秘跡を愛する人々は、ほとんど信仰的に落ち着いています。何があっても自分のなすべきことはきちんとやります。そして客観的にその人の罪を見ても、そんなに大きな罪ではないことをよく感じます。けれどもその人は、赦しの部屋

に入ります。

皆様が尊敬する聖フランシスコは、どのような生き方をしたでしょうか。彼は、死ぬ時まで詩編の51編の頭に出ている、「神よ、わたしを憐れんでください、御慈しみを御憐れみをもって、背きの罪をぬぐって下ください。わたしの咎をことごとく洗い、罪から清めてください。」という祈りを繰り返し祈りました。聖書に「謙遜になりなさい。」「へりくだる心を持ちなさい。」という言葉があるのは、本当に神様・イエス様との出会いができれば、自然に罪人であることを自覚する、という意味です。

皆様、私たちの心が恥を感じられるのは、可能性です。希望です。それは、悔い改めができ、本当にイエス様からのいろいろなことを体験できる恵みの心の働きです。恥を感じることを恥ずかしく思わないでください。恥を感じるべきことには全然恥を感じないで、必要ないことに'恥ずかしい、恥ずかしい'と言い、何とかして避けようとする姿を何回も見ました。

皆様、もう一回考えて見ましょう。罪を感じることに、「私は罪人です。」と告白できることは、一番大きなお恵みだと思えます。絶対に悪いことではありません。そう感じることを自体を恥ずかしいと感じてはいけません。この問題については、横に座っている人を意識する必要もありません。それは、自分の心と神様の関係の中でのみ話せるものです。皆様、これはお恵みです。もし皆様の心に良心的な痛みを感じたら、それは神様からの呼びかけだと理解してもいいのです。神様が「もっと私と親しくなるように。」と呼びかけていらっしゃる恵みだと思えます。そういう心を感じたとき、人によって反応は二つに分かれます。一つは逃げます。逃げたら何にもなりません。もう一つの反応は、「私はこのようにいろいろな罪の中で生きているけれど、どうすればよいか。」とまじめに反省をします。それができれば、その方は神様の体験ができます。

皆様、今日の福音を通してもう一回考えてみましょう。「主よ、わたしから離れてください。わたしは罪深い者なのです。」という告白が私たちにも必要だと思えます。聖なるものと出会うことは、そんなに簡単な事ではありません。勇気も必要です。弱虫である全ての人間にとって、それは怖い出来事です。しかし、神様と具体的な出会いができるように勇気を出すのも必要ではないかと思えます。

ありがとうございました。